二〇一三年二月一六日

急磴を来て春の海展けけり　さつき
松葉杖一歩いつぽに春愁ふ　ぽんこ
七色を綴る架橋の春灯　わかば

二〇一三年二月一五日

春光や撫で牛さんの鼻のさき　さつき
目刺焼く煙吐き出す換気扇　よし子
春光や門かぶりなる松の枝　ぽんこ
春兆す潮入り川の匂ひけり　宏虎
人見知り始まりし子に山笑ふ　こすもす
帰宅せし吾子後ろ手に愛のチョコ　有香
苔庭に春の日射しのやわらかし　三刀

二〇一三年二月一四日

春空に紙飛行機の旋回す　さつき
淡雪や曇り硝子の影法師　さつき
道の駅最前列に蕗の薹　宏虎
切つ先を見せ剪定の梅芽吹く　よし女
子午線を踏みて寺領の梅探る　わかば
尼寺の門前に売る花菜漬　雅流

二〇一三年二月一三日

ウインクをしてをるごとき双葉あり　せいじ
雪解水ぶつかりあひてしぶきけり　英子
真夜に鳴る無言電話や春寒し　満天
産土へ畦道づたひ青き踏む　はく子
犇めける祈願の絵馬に東風強し　かかし
伊予柑の荷を解く部屋に匂ひけり　雅流

二〇一三年二月一二日

人波にもまれるだけよ苗木市　あさこ
うららかや花模様織る梭の音　なつき
梅が枝の雨雫とも蕾とも　よし子

二〇一三年二月一一日

冴え冴えとご詠歌の声澄めりけり　有香
紀州路や畑の真中に梅の花　ぽんこ
家鴨池気の合ふ残り鴨のをり　なつき

二〇一三年二月一〇日

しゃがみ見る節分草の目覚めしと　うつぎ
板塀は仮設祈祷所梅の寺　なつき
耕人の田毎にひとりまたひとり　せいじ
東風通ふ八十島見ゆる丘の上　菜々
片手ではとてももてざる大大根　よし子
紫の濃きが売れ筋ヒヤシンス　あさこ
下萌ゆるここがよろしとお弁当　さつき
春節祭龍舞の銅鑼鳴りやまず　雅流
歳時記を繰りつ戻りつ春眠し　さつき

毎日句会みのる選・二〇一三年二月一八日